

しもかけ
下懸遺跡

所在地 安城市小川町向田
(北緯34度54分20秒 東経137度5分43秒)

調査理由 床上浸水対策特別緊急事業(鹿乗川)

調査期間 平成25年7月～平成25年10月

調査面積 1600 m²

担当者 酒井俊彦



調査地点(1/2.5万「西尾」)

調査の経過 調査は床上浸水対策得悦緊急事業(鹿乗川)に伴い、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて当センターが委託を受けて実施したものである。本遺跡は平成12年度と平成21年度に鹿乗川導水路の東側の調査を行っている。今回を含めた総調査総面積は5010 m²である。今年度は、鹿乗川と鹿乗川導水路間の調査を行った。

立地と環境 本遺跡は矢作川下流域、鹿乗川左岸の沖積地に立地する。右岸の碧海台地上には姫小川古墳などの古墳群が展開し、平成12年より本センターが調査を行っている鹿乗川左岸には、北から南にかけて姫下、寄島、下懸、五反田、惣作の5遺跡が連続して所在する。鹿乗川は碧海台地東辺を直線的に南流し、川の西側の遺跡周辺は平坦な沖積地である。旧鹿乗川は矢作川沖積地を蛇行して走り、本遺跡及び姫下、惣作、寄島で東西方向の旧河道が確認されている。遺跡はこの旧河川の自然堤防上に展開し、標高は5～6mである。平成12・21年度の調査では弥生時代、古墳時代前期、古代の遺構・遺物が検出されている。また、北西から南東方向に流下する古墳時代以前の旧河道が確認され、古墳時代前半の土器と多量の木製品が出土している。

調査の概要 調査区は鹿乗川と導水路間の現堤防下に当たり、鹿乗川に近接している。今年度は幅約7m、長さ約230mの調査区を南半を13A区、北半を13B区として調査した。今回の調査では、上下2面の調査を行った。上面は中世～近世の耕作土層下、奈良時代の遺物包含層である黒色土層上面で行い、13A区で中世の大形の土坑2基を検出した。また、鹿乗川の近世の河道の落ち込みを13A区北半で検出し、近世の陶磁器類と木製品が少量出土した。同層面で、古墳時代前期以前の旧河道が13B区の北部で確認された。下面は奈良時代および古墳時代後半の遺物包含層下の基盤面で遺構を検出した。主な遺構として、古墳時代前期の竪穴建物と考えられる浅い落ち込み3基、平行して走る幅30～40cmの溝群が検出された。竪穴建物からは少量の土師器が検出されたが、溝からは遺物は出土しなかった。切り合い関係から溝群は集落に先行する時期になる。また、13B区の旧河道埋土下層より、古墳時代前期の土師器、木製品、自然木が出土した。

まとめ 今年度の調査区は、遺跡の北西部に相当する。調査の結果、これまでの調査で検出されていた古墳時代前半以前の旧河道の延長部分が確認され、同様の遺物が出土した。また、同時期の集落が展開し、先行する時期の溝群との関係が確認された。今後は今回の調査区より北の部分の調査を通じて、遺跡の広がりや寄島遺跡との関連性を検討することが課題となる。

(酒井俊彦)

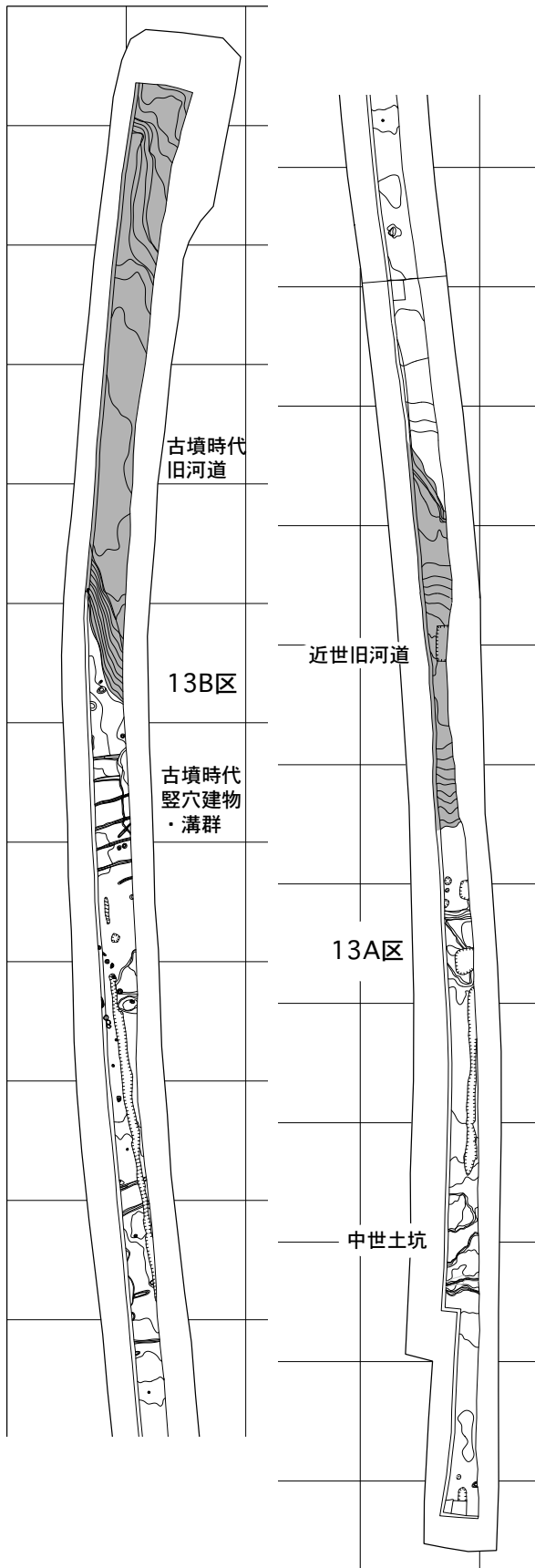


図1 遺構全体図 (1:600)



A区全景 (北より)



古墳時代木製品出土状態



古墳時代竪穴住居・溝群



中世土坑